

看護部概要

(暫定版)

2024 年度

目次

I 病院理念	1
II 看護部理念・方針	
1 看護部理念	1
2 看護部方針	1
教育方針	1
4 期待する看護職員像	1
5 YCU-N	2
III 看護部目標	3
IV 看護部組織	
1-1) 看護部組織図 部署管理体制	4
1-2) 看護部組織図 運営組織図	5
2-1) 看護部体制表	6
2-2) 勤務体制・勤務時間	7
3 看護単位の紹介（新体制の部署構成で記載）	8

I. 病院理念

私たちは、市民の皆様に信頼され「地域医療最後の砦」となる病院を創造します。

II. 看護部理念・方針

1. 看護部理念

Create Nursing that leads to the future.
信頼に応え、未来につながる看護を創造します。

2. 看護部方針

- 1 高い倫理観を持ち、患者の権利や意思を尊重します。
- 2 患者の生活・医療の継続のため地域医療の一翼を担います。
- 3 根拠に基づいて適切に判断し、必要な看護を提供します。
- 4 職員の健康を守る働きやすい職場環境をつくります。
- 5 快適な医療環境を大切にし、健全な病院経営に参画します。
- 6 変化に柔軟に対応し、役割と責任を果たします。

3. 教育方針

【当院の機能・役割と人材育成】

当院は3次救急機能を備えた病院として、難度の高い急性期医療を担う一方、大学病院として高度医療への対応を行い、地域医療を支援する病院である。そのため、高度な技術や知識の習得だけでなく、豊かな人間性と高い倫理観を備え、病院の機能に対応するだけでなく、地域医療に貢献できる看護職を育成することを使命としている。

【教育方針】

1. 市民総合医療センター看護部の教育基盤を力として一人ひとりの看護職の可能性を見出す。
2. 一人ひとりの看護職の力や可能性を発展、成長させ育成する。
3. YCU-Nに基づき、ジェネラリストを育成する。

【教育目的】

大学病院における役割、病院の理念、看護部の理念と方針を理解し、高度な知識・技術、豊かな人間性、高い倫理観を備えた看護職を育成する。

【教育目標】

1. 臨床実践能力の向上を図り、安全で安心な看護を実践できる。
2. 専門職業人として自覚を持ち、自己成長できる。
3. 医療チームの一員として役割と責任を果たすことができる。
4. 患者を尊重し、倫理観を養うことができる。
5. 看護の質向上を目指し、研究に取り組むことができる。
6. レジリエンス(「回復力」「復元力」あるいは「弾力性」)を発揮し、柔軟に対応することができる。

4. 期待する看護職員像

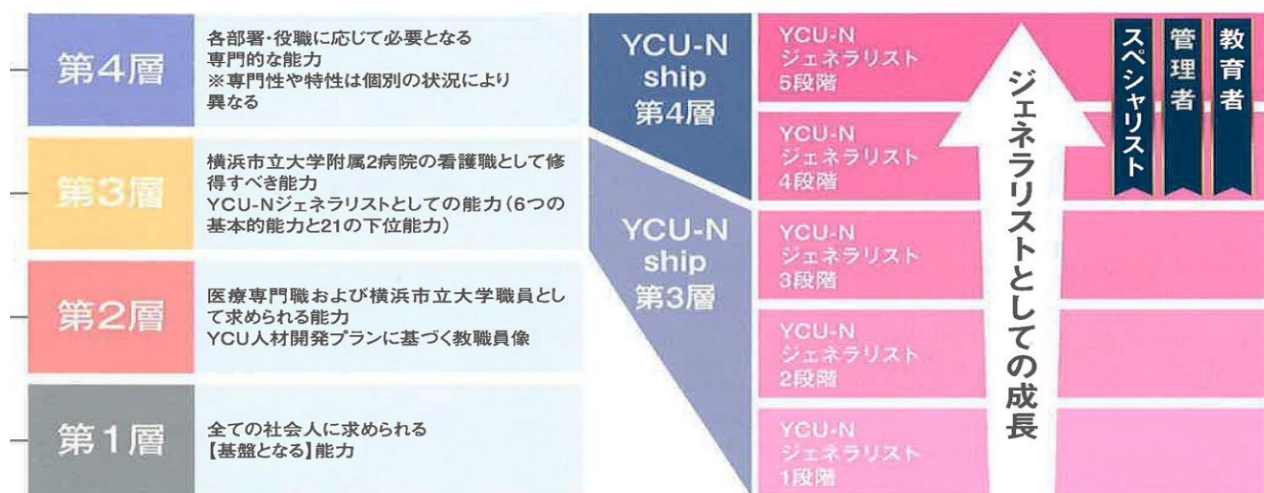
1. 一人ひとりが得意分野・技を持つ看護職
2. 自分の持っている力を活かし、組織・地域に貢献できる看護職
3. 高い倫理性を持って行動できる看護職
4. 常に患者の生活を捉え、その全体像から必要ケアを判断し、提供できる看護職
5. 多様な価値観を受け入れ、互いを理解しながら協同できる看護職

5.YCU－N（Yokohama Career Up for NURSE）

YCU-N とは横浜市立大学が目指すジェネラリスト育成計画である。基礎教育で養成された能力を、あらゆる対象と状況に対応できるよう育む。

横浜市立大学が目指すジェネラリストとは横浜市立大学の安全・倫理を基盤とし、看護師に必要な基本的能力を身に付けながら知識・技術・能力を発揮し、キャリア開発をし続ける看護師である。

YCU-N は 5 段階で構成され、3 段階目までに基本的な看護の実践ができることを目指し、4 段階目以降はそれぞれのニーズに応じたキャリア形成のためのプログラムを行っていく。また、ジェネラリストとして習得すべき能力は 6 つの基本的能力と 21 の下位能力から構成されている。



【表 1】 6 つの基本的能力と 21 の下位能力

①ヒューマンケアを提供するために必要な基本的能力	<ul style="list-style-type: none"> •看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護する能力 •意思決定を支える能力 •実施する看護について説明し同意を得る能力 •援助の関係を形成するコミュニケーション能力
②対象を全人的に捉え、根拠に基づく看護を展開できるように必要な基本的能力	<ul style="list-style-type: none"> •人間を多面的（病態生理、生活者、社会）に捉え、統合する能力 •エビデンスを収集・活用して臨床判断できる能力 •問題解決思考を用いて看護を実践する能力 •看護援助技術を安全かつ適切に提供できる能力
③健康課題に対応した看護を展開できる基本的能力	<ul style="list-style-type: none"> •健康の保持増進と疾病を予防する能力 •急激な健康破綻と回復過程にある人々を援助する能力 •慢性疾患及び慢性的な健康課題を有する人々を援助する能力 •終末期にある人々を援助する能力の育成を行う能力
④ケア環境とチーム体制を整備し看護を展開する基本的能力	<ul style="list-style-type: none"> •看護機能と看護の質を評価し改善するマネジメント能力 •多職種と協働して地域ケアシステムを構築する能力 •安全なケア環境を提供する能力 •保健医療福祉の協働チームでリーダーシップをとり多職種と連携する力 •社会の動向を踏まえて看護を創造（アート）する能力
⑤生涯専門職として研鑽を継続していく基本的能力	<ul style="list-style-type: none"> •生涯学習を継続して成長するための自己教育力とキャリアデザイン力 •看護専門職（プロフェッショナル）としての価値と専門性を発展する能力
⑥専門職として看護の実践知を共有できる基本的能力	<ul style="list-style-type: none"> •対象のレディネスに合わせて教育・指導する能力 •看護実践を研究的視点で捉える能力

Ⅲ.看護部目標



看護部目標 2024 年度

看護部理念：Create Nursing that leads to the future.

信頼に応え、未来につながる看護を創造します。

看護部方針

- ・高い倫理観を持ち、患者の権利や意思を尊重します。
- ・患者の生活・医療の継続のため地域医療の一翼を担います。
- ・根拠に基づいて適切に判断し、必要な看護を提供します。
- ・職員の健康を守る働きやすい職場環境をつくります。
- ・快適な医療環境を大切にし、健全な病院経営に参画します。
- ・変化に柔軟に対応し、役割と責任を果たします。

看護部中期目標 2024 年度～2026 年度

看護の創造を実現する

- ・看護の独自機能（専門性）に基づき、看護業務を再考する。
- ・すべての看護職が変化に対応し、自己成長できる。
- ・患者の意向を尊重し、最も適切な看護を地域と共に考え実現する。
- ・各指標をもとに、健全な経営参画、安全な医療環境の推進を行う。

【2024 年度看護部目標】

1. 看護の専門性に基づき、業務を分析して選択し、実施・評価する。看護部
2. キャリアラダーを通じて自己を客観的にとらえ、よりよい看護を考えることが出来る。
3. 変化に対応し、心理的安全性の高いチーム作りが出来る。
4. 患者の意向に沿った看護の実現に向けて、地域との連携を強化し
更なる PFM の向上をはかる。
5. 【経営】【安全】【感染】【災害】等の指標を基に、健全な経営参画、安全な医療環境の
推進を行う。

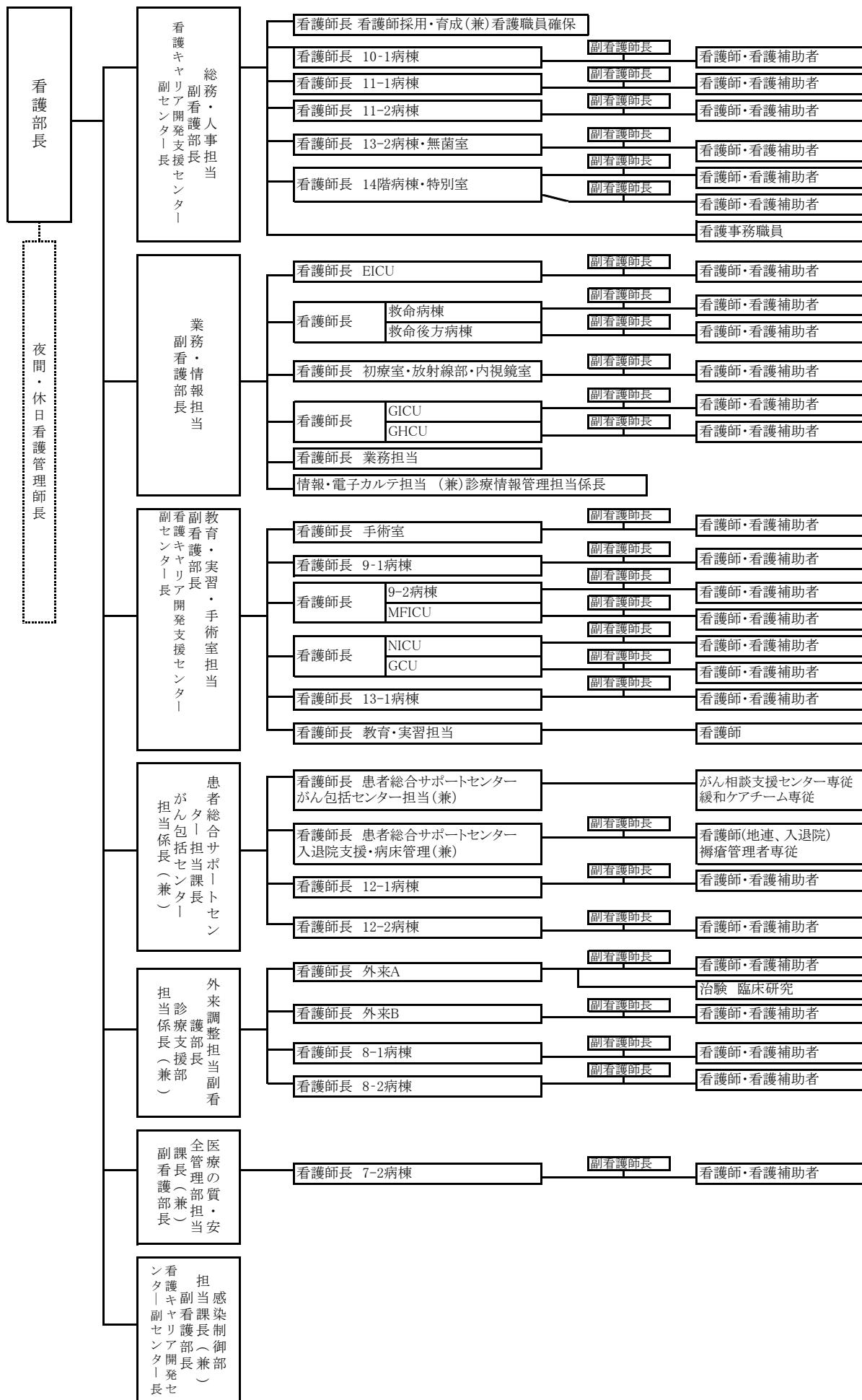
【院内課題】

- ・病院機能評価受審
- ・HCU 改修工事

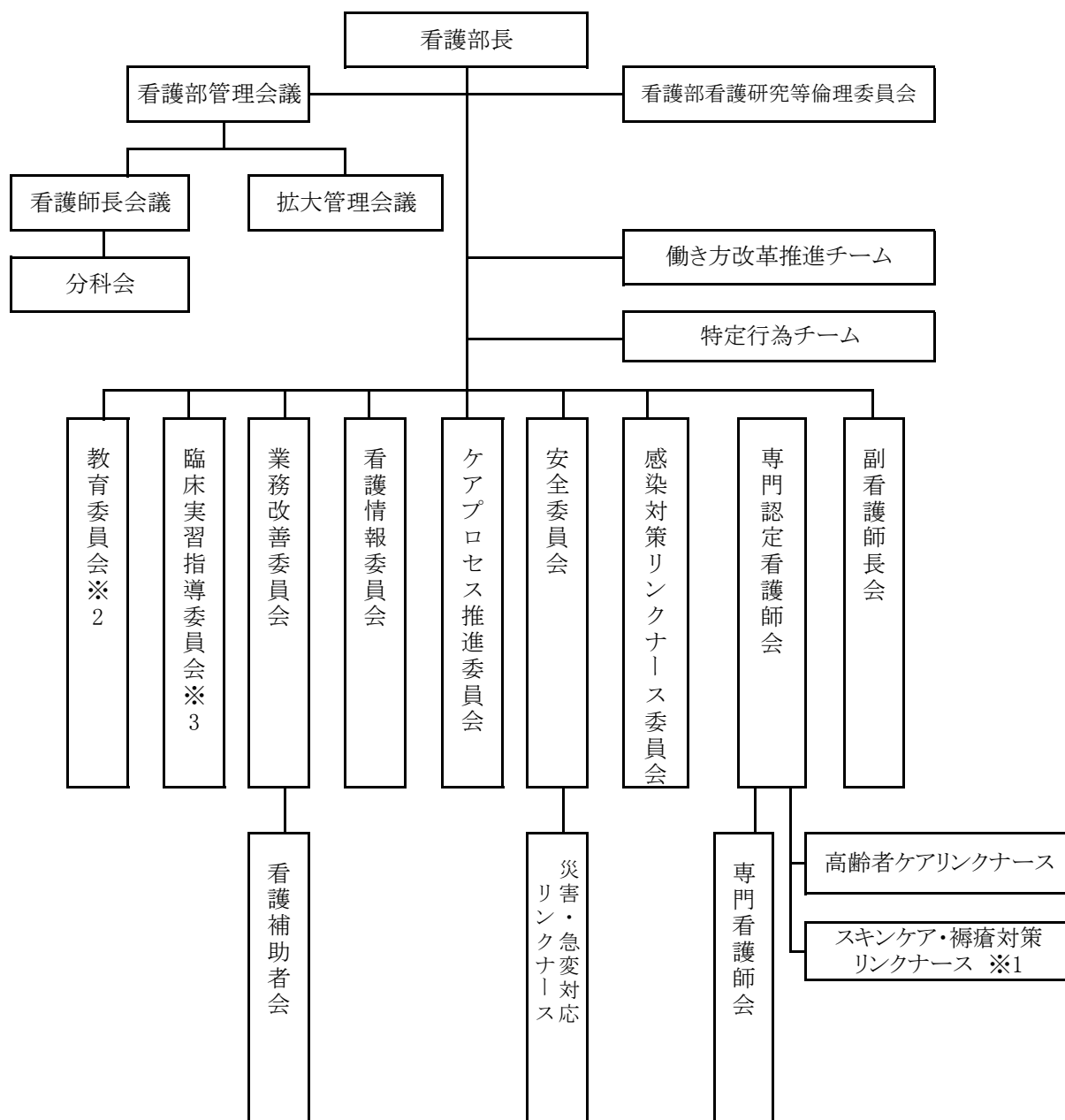
IV 看護部組織

2024年度

IV-1-1) 看護部組織図 部署管理体制



IV-1-2) 運営組織図



委員会・リンクナース会の開催

- (1) 委員会の開催は 1回／2ヵ月を原則とする。
- (2) リンクナース会の開催は計画案を管理会議に提案する。

※リンクナースは窓口及び部署の推進者役割がとれる人材

委員・担当者の望ましい要件

※1部署褥瘡管理責任者

※2教員養成研修修了者もしくは実習指導者講習会修了者

※3実習指導者講習会修了者

IV-2-2) 勤務体制・勤務時間

令和6年4月1日現在

看護師・助産師					看護補助者						
部署		勤務体制		変則勤務	担当部署	配置数	勤務時間		休日勤務		
7-2病棟	3交代		遅出 11:30～20:00		7-2病棟	5	平日 8:00～16:45 遅番 10:45～19:30 休日 8:15～17:00 夜間看護補助者 ペイシェントサポーター 8階・10階・11階・12階・13階・ 14階・救命後方病棟 (平日のみ) 16:00～22:00 夜間看護補助者 ホスピタルサポーター 院内2名で対応 (土日含む毎日) 16:30～翌8:30	10名で ローテーション			
8-1病棟	3交代				8-1病棟						
8-2病棟	3交代				8-2病棟	5					
					CCU						
9-1病棟	3交代				9-1病棟	3		9名で ローテーション			
9-2病棟	3交代				9-2病棟	2					
					MFICU						
NICU	3交代				NICU	4					
					GCU						
10-1病棟	3交代		遅出 11:30～20:00		10-1病棟	4		13名で ローテーション			
11-1病棟	3交代				11-1病棟	4					
11-2病棟	3交代				11-2病棟	3					
12-1病棟	3交代				12-1病棟	3					
12-2病棟	3交代				12-2病棟	3		12名で ローテーション			
13-1病棟	3交代		遅出 11:30～20:00		13-1病棟	6					
13-2病棟 無菌室	3交代		遅出 11:30～20:00		13-2病棟						
					無菌室						
14階特室	3交代				14階特室	2					
14階病棟	3交代		遅出 11:30～20:00		14階病棟	4		9名でローテーション 初療室業務含む 手術室業務除く			
GICU	3交代				GICU	9					
					GHCU						
EICU	3交代		遅出 11:30～20:00		EICU						
救命病棟	3交代				救命病棟						
救命後方病棟	3交代				救命後方						
手術室	日勤 8:15～16:45 2勤務 16:15～8:45		遅出 11:30～20:00 (平日2名/日) 残り当番 小残り 大残り		手術室		8:30～17:15				
外来	A 血液浄化室	日勤	早出 8:00～16:30		A 血液浄化室	アシスタント 5 (血浄/兼) サポーター 11					
	A	日勤			A						
	B	日勤	(化学療法室)遅出10:00～18:30		B	アシスタント 5 サポーター 9					
初療室・放射線部	3交代				初療室 放射線部	1					
内視鏡室	日勤				内視鏡室	1					
							8:30	12:00	12:15	13:00	17:00
							勤務時間		休息	休憩(無給)	勤務時間
							有給		有給		
勤務時間 (看護師)	日勤 8:30～17:00		夜間・休日 看護管理師長 勤務時間	日勤	8:30～17:00		※ 半日単位の休暇は、正午で区分 ※ 休息時間は業務上の必要があれば業務を行う。				
	準夜 16:30～1:00			夜間 2勤務	16:30～9:00 18:00管理当直ミーティング						
	深夜 0:30～9:00										

IV-3 看護単位の紹介

病棟名	構造	おもな疾患	大事にしたい看護
7-2病棟	精神医療センター (42床)	統合失調症、うつ病、双極性感情障害、摂食障害、器質性精神障害、認知症、発達障害、身体合併症各種（妊娠・低栄養状態・多発外傷・悪性腫瘍・イレウス・肺炎など）	<ul style="list-style-type: none"> ・神奈川県精神科救急医療基幹施設として行政病床6床を保有し、急性期患者に対応できる安全な看護を提供する。 ・治療上必要な行動制限を高い倫理観のもと適切に行い、早期の制限解除に取り組んでいる。 ・他診療科と協働して、身体的な病状に合わせた身体合併症看護を提供する。 ・傾聴と丁寧な観察を行い、患者の気持ちに寄り添う看護を提供する。 ・多職種と協働し、チームで入院から退院後まで継続した看護を提供する。
8-1病棟	心臓血管センター 内科（35床）	心筋梗塞、狭心症、不整脈、弁膜症、心不全、肺血栓塞栓症、感染性心内膜炎	<ul style="list-style-type: none"> ・CCU，外来と連携し超急性期～亜急性期・回復期～退院後の外来通院・心臓リハビリテーション外来フォローへと途切れることなく継続した看護を提供する。 ・心不全は進行性かつ致死性の疾患であり、急性増悪時の症状モニタリングや適切な対処行動、セルフケアなどの継続的な指導を実施している。水分管理・服薬・栄養・運動指導など個別の背景に合わせた看護を提供している。 ・糖尿病に対しては、患者の個性に合わせた外来から病棟まで継続した看護・教育指導を行う。
	内分泌・糖尿病科 (7床)	糖尿病、内分泌疾患	
	共用（1床）		
8-2病棟 CCU	病床数26床・CCU6床	急性心筋梗塞,狭心症,心不全,不整脈,肺血栓塞栓症,心筋症,急性大動脈解離,心臓弁膜症,胸・腹部大動脈瘤など	<ul style="list-style-type: none"> ・心・大血管疾患の超急性期～慢性期、退院後の生活までを見据え、継続した看護を提供する。 ・心・大血管疾患の内科的治療・外科的治療に精通し、安全な看護を提供する。 ・患者がもつ回復力や予備機能を活かし、支援する。 ・患者・家族の意思決定を尊重し、個々のニーズに合わせた看護を提供する。
	心臓血管センター外科 (26床)		
	心臓血管センター内科 (6床)		
9-1病棟	病床数34床	産科的異常のある妊婦（切迫早産、前置胎盤、妊娠高血圧腎症、重症悪阻）合併症のある妊産褥婦（糖尿病、心疾患、消化器疾患）	<ul style="list-style-type: none"> ・正常を逸脱して入院となった母体や胎児に対し、日々の経過から小さなサインを見逃さずに対応する。 ・母乳育児を推進し、退院後もセルフケアが行えるよう支援する。 ・グリーフケアを大切にし、予期せぬ胎児・新生児死亡のケースには多職種で連携してケアを行う。 ・早期から緩和ケアチームや多職種と連携し、患者の意思決定支援を行いながら療養環境を整える。 ・患者、家族を常に尊重し、個性のある看護を提供する。 ・専門的治療を不安なく受けることができ、早期に社会復帰できるように支援する。
	乳腺甲状腺外科（8床）	悪性腫瘍（乳がん、甲状腺がん）バセドウ病	
	消化器病センター内科 (6床)	食道・胃・大腸がん 膵臓・胆道がん、胆管炎、胆嚢炎 肝臓がん、肝硬変、肝炎	
	皮膚科（5床）	感染・炎症・アレルギー性の皮膚疾患、自己免疫性水疱症など	
	心臓血管センター内科 (1床)	心筋梗塞、狭心症、不整脈など	
	感染共用（1床）	汎発性帯状疱疹、水痘、結核など	
	共用病床（1床）		

病棟名	構造	おもな疾患	大事にしたい看護
9-2病棟 MFICU	病床数（38床） 産科（24床） 新生児科（14床） MFICU（6床）	正常分娩、産科的異常ある妊娠・分娩（双胎・切迫早産・前置胎盤・妊娠高血圧腎症・FGRなど） 母体合併症のある妊娠・分娩（心疾患・糖尿病・消化器疾患など） 正常新生児、低出生体重児、早産児（妊娠35週以降）	<ul style="list-style-type: none"> ・神奈川県周産期救急医療システムの基幹病院として、24時間体制で産科救急及びハイリスク妊産褥婦に対応している。 ・危機的状況や逸脱した経過の妊産褥婦及び家族に対し多職種連携を図り、チーム医療を提供している。 ・多様なニーズに応えるべく、産科医・麻酔科医・助産師で協働し麻酔分娩を行っている。 ・WHO・ユニセフから「赤ちゃんにやさしい病院（BFH）」の認定を受け、基本的には母乳育児を推奨し24時間母子同室としている。 ・NCPR Aコース以上を全員取得、フォローアップ研修の企画・運営に取り組んでいる。 ・予期せぬ胎児・新生児死亡を経験した患者・家族のグリーフケアを母子医療センター合同で実践する事を大切にしている。
NICU GCU	病床数 21床 診療科 総合周産期母子医療センター （NICU 9床・GCU 12床）	早産・低出生体重児（在胎22週以降）、重症新生児仮死、新生児一過性多呼吸、呼吸窮迫症候群、胎便吸引症候群、先天奇形、染色体異常、頭蓋内出血、新生児低血糖症、高ビリルビン血症、未熟児網膜症、多胎（双胎・品胎）	<ul style="list-style-type: none"> ・総合周産期母子医療センター、神奈川県周産期救急支援システム（新生児・産科）の基幹病院としての役割を發揮する。 ・BFH（赤ちゃんにやさしい病院）認定施設として「母乳育児を成功させる10か条」に基づいた母乳育児を推進する。 ・新生児集中ケア認定看護師を中心とした、急性期重症患児・ハイリスク新生児への専門的知識、技術に基づいた安全な看護を実践する。 ・NIDCAPプロフェッショナルの支援による、早期から個別ケアを展開と発達を促進させる看護を提供する。 ・家族と共に児のよりよい成長発達を目指すファミリーセンタードケアを実施する。 ・出生後早期からの多職種連携と、退院後の生活を見据えた家族支援を行う。
10-1病棟	泌尿器科（20床） 腎臓・高血圧内科（12床） 婦人科（11床） 生殖医療センター（2床） 心臓血管センター外科（1床） 共用（2床）	膀胱腫瘍、前立腺癌、腎・尿管癌、精巣腫瘍、生体・献腎移植 慢性腎臓病、腎炎、ネフローゼ症候群 子宮・卵巣癌、子宮ポリープ、子宮外妊娠 不妊症、精巣静脈瘤 狭心症、急性大動脈解離術後	<ul style="list-style-type: none"> ・入院時に迅速なアセスメントを行い、周手術期患者看護の不安軽減を図り、外来連携をする。 ・悪性腫瘍の化学・放射線療法に対する個別性のある生活指導と看護の提供する。 ・緩和ケア・リエゾン・MSWと多職種連携し、患者の意思決定支援に寄り添う。 ・腎移植・ウロストミー造設患者に対し、早期から退院後の生活を見据えた指導を行う。 ・腎臓病の重症化予防のための教育入院、生活指導の支援を家族を交えて行う。 ・神奈川県で唯一男女ペアでの不妊治療が可能な病院であり、外来からの精神面サポートやプライバシーに配慮した環境を提供する。

病棟名	構造	おもな疾患	大事にしたい看護
11-1病棟	消化器病センター 内科（28床）	食道胃静脈瘤、胃十二指腸潰瘍、早期胃癌、早期大腸癌、早期食道癌、肝炎、肝癌、胆嚢胆石症、胆道癌、膵臓癌	<ul style="list-style-type: none"> ・消化器癌患者に対する専門的治療（内視鏡治療、超音波下治療、化学療法）を不安なく受けられ、短期間での通常の生活に戻るができるよう支援する。 ・急性期患者や脳神経内科疾患患者の機能回復へ向けた看護を実践し、地域医療へと移行する過程での支援他職種と連携し提供する。 ・患者の意向を尊重し、ACPを重視しそれに基づいた適切なケアやコミュニケーションを通じて信頼関係を築き、意思決定を支援する。
	脳神経内科（19床）	パーキンソン病、多発性硬化症、ギランバレー症候群、重症筋無力症、脳炎・髄膜炎、筋ジストロフィー、多発筋炎、脳梗塞	
11-2病棟	消化器病センター 外科（44床）	消化器癌（食道、胃、肝臓、膵臓、胆道、大腸、直腸）、胆石症、虫垂炎、消化管狭窄、腸閉塞、腹壁ヘルニア、鼠経ヘルニア、消化管腫瘍、肝腫瘍、肺炎	<ul style="list-style-type: none"> ・あらゆる健康レベルにおいて、多職種連携を推進し患者のアドヒアランスを高め支援する。 ・周術期の急性期から退院後の生活へ向けた看護を実践する。 ・患者が住み慣れた地域で安心して療養生活を送れるよう、患者のニーズに応じた在宅療養支援を行う。 ・看護者の倫理要綱を行動指針とし、人権尊重を基盤とした看護ケアを実践する。
	消化器病センター 内科（2床）		
	感染共用（1床）	結核、汎発性带状疱疹、風疹、麻疹	
12-1病棟	眼科（20床）	網膜剥離、糖尿病性網膜症、黄斑円孔、黄斑上膜、網膜中心動脈閉塞床、白内障、緑内障、眼球破裂	<ul style="list-style-type: none"> ・診療科ごとの周術期の専門的なケアを行う。 ・感覚障害や言語障害を伴う患者に対しても、安全・安楽な看護ケア・療養環境の提供を行う。 ・在宅療養へ移行する患者・家族への指導及びQOLの保持、自立を促す看護の提供、入退院支援看護師、MSW等の多職種と連携した在宅調整の推進をする。 ・がん患者への治療を含めた専門的なケアの提供、緩和チームと連携した疼痛コントロールと全身管理、終末期を見据えた意思決定支援をする。
	耳鼻咽喉科（20床）	頭頸部、舌部、上顎洞部などの悪性腫瘍、慢性副鼻腔炎、急性扁桃炎、突発性難聴、顔面神経麻痺	
	形成外科（4床）	ケロイド、糖尿病性足病変、手指切断、皮膚腫瘍、乳房再建、眼瞼下垂、睫毛内反症	
	呼吸器病センター内科（2床）	悪性疾患（肺がん、縦隔腫瘍）慢性疾患（間質性肺炎、慢性閉そく性呼吸器疾患等）、気胸、膿胸等	
	共用病床（2床）		
12-2病棟	病床数40床 呼吸器病センター 内科（26床） 外科（6床）	悪性腫瘍（肺がん、縦隔腫瘍）、慢性疾患（間質性肺炎、慢性閉塞性呼吸器疾患等）、気胸、膿胸等	<ul style="list-style-type: none"> ・呼吸器疾患、歯科口腔外科領域疾患の専門治療（手術・化学療法・放射線治療等）に対する知識、技術を習得し、安全な看護を提供する。 ・呼吸不全による呼吸困難感から生じる不安に寄り添った看護を提供する。 ・患者/家族の意思を尊重し、多職種や専門チームと協働し、緩和ケア、終末期ケアを実践する。 ・在宅酸素療法や終末期を自宅で迎える患者/家族に必要な在宅療養支援看護を提供する。
	歯科・口腔外科・矯正外科（5床）	顎変形症、口腔領域の悪性腫瘍、感染症等	
	共用病床（3床）		

病棟名	構造	おもな疾患	大事にしたい看護
13-1病棟	病床数30床 小児医療センター (25床) 共用小児科 (5床)	腎臓疾患、内分泌糖尿病疾患、神経疾患、感染免疫疾患、呼吸器疾患、心臓疾患を除く外科系疾患	<ul style="list-style-type: none"> ・横浜市小児救急医療第3次受け入れ施設として、急性期から慢性期までの子どもとその家族に質の高い小児看護を提供する。 ・センター病院こども憲章に則り、子どもが安心して治療を受けられる環境を提供し、成長発達を促す支援を実施する。 ・在宅移行支援や意思決定支援において、地域を含めた他職種と連携し、子どもと家族のニーズに沿った看護ケアを提供する。
13-2病棟 無菌室	血液内科 (24床) (中央無菌室4床)	白血病、悪性リンパ腫 多発性骨髄腫 骨髄異形成症候群 再生不良性貧血	<ul style="list-style-type: none"> ・高い倫理観を持ち、患者の人権や人格を尊重し、安全・安心で質の高い看護を提供すると共に、患者の意思決定を支援する。 ・患者・家族が安心して治療に参加できるように寄り添う姿勢を持ち、家族を含めた精神的ケアを実践する。 ・造血器腫瘍に対する化学療法、造血細胞移植、輸血療法に関し、高度な看護技術を提供する。 ・造血幹細胞移植後フォローアップ外来を担当し、入院から退院後まで継続したケア、サポートを実践する。 ・患者の薬剤・栄養療法を支援し、地域と連携する。 ・内科外科（手術）ともに、患者の状況に応じた看護を実践する。
	炎症性腸疾患/IBD センター (14床)	クローン病、潰瘍性大腸炎、腸管ペーチェット病	
	リウマチ膠原病内科 (5床)	SLE、皮膚筋炎、強皮症 慢性関節リウマチ 間質性肺炎等膠原病全般	
	共用病床 (3床)		
	共用診療病床 (1床)		
14階病棟	整形外科 (27床)	変形性関節症や脊椎疾患、骨折、外傷、運動機能改善を目指した外科治療	<ul style="list-style-type: none"> ・高い倫理観を持ち患者の人権、人格を尊重し、安全、安心で質の高い看護を提供する。 ・急性期、周術期患者の機能回復に向けた看護を実践し、多職種と連携しながら地域医療へ継続する。 ・個々の生活背景に応じた回復期の支援を行い、生活者としての患者に寄り添ったケアを提供する。
	リウマチ整形外科 (5床)		
	脳神経外科 (10床)	脳腫瘍、下垂体線腫、脳血管障害(脳梗塞・脳出血・くも膜下出血、脳動脈瘤など)	
	共用 (3床)		
14階特別室	全診療科 (15床)	内科系・外科系問わず急性期・周術期・慢性期疾患、乳房再建術	<ul style="list-style-type: none"> ・患者の個別性を尊重した看護を提供する。 ・患者に寄り添い回復期の支援を行い、患者の意思決定を支援する。 ・全診療科の様々な治療過程の患者に対応し、安全、安心で質の高い看護実践を行う。
GICU GHCU	GICU (8床) HCU (10床)	心疾患（心筋梗塞、狭心症、胸・腹部動脈瘤、解離性大動脈瘤）、脳腫瘍、下垂体線腫、食道癌、腎移植、小児疾患、分娩時合併症、呼吸・循環不全、術後など	<ul style="list-style-type: none"> ・重篤な状態にある患者へ治療効果が最大限に得られるようなクリティカルケアの提供とその患者を支えるご家族への精神的ケアをする。 ・異常の早期発見と全身管理における周手術期看護をする。 ・感染対策の徹底と感染予防ケアをする。 ・患者・家族の意思決定を尊重し、ニーズにこたえる看護ケアをする。
EICU	救急科 高度救命救急センター (12床)	重症外傷、多発外傷、広範囲熱傷、指肢切断、中毒、急性呼吸不全、循環不全（ショック）、心肺停止、意識障害、重症感染症、高体温・低体温、消化管出血、脳出血、脳梗塞など	<ul style="list-style-type: none"> ・生命の危機状況にある患者、重篤な合併症が予測される患者へのクリティカルケアを提供する。 ・個別性に合った最適な看護を選択し、予測的判断をもってチーム医療を実践する。 ・患者・家族に対する精神的援助や意思決定支援を支える看護を提供する。 ・より良い看護実践へ向けて、部署専門チーム（呼吸・循環、急変、早期離床、摂食・嚥下、エコー、ECMO、IMPELLA、家族看護）と連携しケアを継続する。

病棟名	構造	おもな疾患	大事にしたい看護
救命病棟	高度救命救急センター 救急科（8床）	重症外傷、多発外傷、四肢切断、中毒、急性呼吸不全、心肺停止蘇生後、循環不全、意識障害、脳内病変など	<ul style="list-style-type: none"> ・超急性期から亜急性期の患者において身体的・精神的・社会的側面から患者ケアを提供する。 ・多職種と連携し患者・家族をサポートし意思決定支援を実施する。 ・社会復帰に向けた退院支援を実施する。 ・終末期の看取りの環境を整え、患者家族へのグリーフケアを実施する。
救命後方病棟	高度救命救急センター 救急科（27床）	重症外傷、多発外傷、四肢切断、中毒、急性呼吸不全、心肺停止蘇生後、循環不全、意識障害、脳病変など	<ul style="list-style-type: none"> ・亜急性期からリハビリ期にある患者における身体的・精神的・社会的側面から患者ケアを提供する。 ・社会復帰に向けての支援や意思決定を支援するために多職種との連携し、患者家族をサポートする。 ・全診療科を対象とした2次救急患者の入院対応を行う。
初療室 放射線部 内視鏡室	初療室 CT初療室 救急外来 透視室 CT室 MRI室 血管撮影室 ハイブリット手術室内 視鏡室 ドクターカーによる病院前救急	重症外傷、多発外傷、切断肢、広範囲熱傷、中毒、急性心血管疾患、急性脳血管障害、呼吸不全、循環不全、消化管出血、ショック、心停止など 各診療科の検査・診断・治療 上下部消化管の検査・診断・治療	<ul style="list-style-type: none"> ・救急医療処置を必要とする患者に対しての看護を実践する。 ・危機的状況に置かれた患者・家族の意思決定支援を含めたケアを提供する。 ・患者の緊急度に応じて優先順位を判断し、適正な診療へ繋がる看護を提供する。 ・内視鏡室、透視室、血管撮影室における深鎮静下での検査・治療の安全な介助と、状態観察及び看護を実践する。 ・ハイブリット手術室での高難度治療介助と看護を実践する。 ・全ての治療室での多職種で連携したチーム医療を実践する。 ・療養生活に視点を置いた、看護の情報継続、支援を実施する。
手術室	中央手術室 13室 本館手術室 6室 ハイブリット室 1室 周術期管理センター	心臓血管手術、脳血管手術、悪性腫瘍手術、重症外傷手術、腎移植手術、ロボット支援下手術、日帰り手術など	<ul style="list-style-type: none"> ・専門性のある知識と技術を持ち、個別性のある周術期看護を提供する。 ・患者の生命倫理や尊厳の尊重、手術の意思決定など倫理的な視点を持ち、看護を提供する。 ・周術期患者に対し、安全で安心できる看護を提供する。 ・多職種で連携し安全な手術看護を提供する。
外来 A	【疾患別センター】 リウマチ膠原病センター 炎症性腸疾患センター 精神医療センター 生殖医療センター 【専門診療科】 整形外科、眼科、耳鼻咽喉科、歯科・口腔外科、矯正歯科、麻酔科、リハビリテーション科、緩和ケア内科、皮膚科 【検査・中央部門】 血液浄化療法室、自己血外来、臨床治験担当		<ul style="list-style-type: none"> ・患者の病態生理や病状、重症度及び緊急度などを把握して、必要なケアをアセスメントし専門性の高い看護を提供する。 ・患者の状態変化に伴う不安や苦痛に寄り添い、安心して診療が受けられるよう適切な看護を実践する。 ・疾患を持ちながら地域で療養、社会生活を営む患者が、安心して生活が送れるように、療養上の世話や医療処置等の指導を行う。 ・特定の専門領域において、患者の個別性に応じて生活に伴う症状改善や自己管理の支援等を看護師が主導して行う。（フットケア外来、不妊看護外来） ・入院前から患者の生活をアセスメントし、多職種と行動しながら入院前から退院支援・退院調整を実践する。

病棟名	構造	おもな疾患	大事にしたい看護
外来 B	<p>【疾患別センター】</p> <p>総合周産期母子医療センター</p> <p>心臓血管センター</p> <p>消化器病センター</p> <p>呼吸器病センター</p> <p>小児総合医療センター</p> <p>【専門診療科】</p> <p>一般内科、血液内科、腎臓・高血圧内科、内分泌・糖尿病内科、脳神経内科、乳腺・甲状腺外科、泌尿器・腎移植科、婦人科、放射線科、脳神経外科、形成外科、遺伝子診療科、外来化学療法室</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・患者の病態生理や病状、重症度及び緊急度などを把握して必要なケアをアセスメントし専門性の高い看護を提供する。 ・患者の状態変化に伴う不安や苦痛に寄り添い、安心して診療が受けられるよう適切な看護を実践する。 ・疾患を持ちながら地域で療養、社会生活を営む患者が、安心して生活が送れるように、療養上の世話や医療処置等の指導を行う。 ・特定の専門領域において、患者の個別性に応じて生活に伴う症状改善や自己管理の支援等を看護師が主導して行う。 <p>（看護外来：フットケア・ストマ・がん看護・腎移植フォロー・母乳・小児看護・リンパ浮腫等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・患者、家族の治療に関する理解度や意向を把握し、意思決定支援を行う。 ・入院前から患者の生活をアセスメントし、多職種と行動しながら入院前から退院支援・退院調整を実践する。
患者総合サポートセンター	入退院支援担当	<p>入退院支援</p> <p>外来患者の療養支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・外来診療中から退院後の生活を見据えて療養支援リスクスクリーニングを行い、適切な療養環境を支援している。 ・患者の意思決定を支援し意向に沿った調整をしている。 ・早期に地域医療機関とカンファレンスを実施し継続的な支援を行っている。